

第 52 回大阪府新型コロナウイルス対策本部会議 議事概要

○と き：令和 3 年 6 月 16 日（水曜日）12 時 05 分から 12 時 40 分まで

○ところ：大阪府新別館南館 8 階 大研修室

○出席者：吉村知事・田中副知事・山野副知事・山口副知事・危機管理監・政策企画部企画室長・報道監・総務部長・財務部長・福祉部長・健康医療部長・ワクチン接種推進監・商工労働部長・教育長・府警本部警備部長・大阪市健康局首席医務監

【会議資料】

会議次第

- ・資料 1－1 現在の感染状況について
- ・資料 1－2 現在の療養状況について
- ・資料 1－3 療養者数のシミュレーションについて
- ・資料 1－4 感染状況と医療提供体制の状況について
- ・資料 1－5 （参考）新型コロナウイルスの懸念される変異株について
- ・資料 1－6 宿泊療養施設について
- ・資料 1－7 滞在人口の推移
- ・資料 2－1 営業時間短縮要請の実効性確保に向けた取組み
- ・資料 2－2 感染防止認証ゴールドステッカー制度について
- ・資料 2－3 飲食店「スマホ検査センター」の活用
- ・資料 3－1 まん延防止等重点措置を実施すべき区域における要請
- ・資料 3－2 専門家のご意見

【知事】

- ・皆さんお疲れ様です。
- ・大阪府に出されている緊急事態宣言の期間が 6 月 20 日までとなっています。
- ・今の大阪の感染状況ですが、緊急事態宣言の期間中、大きな負担も伴う中で、本当に多くの府民の皆さん、事業者の皆さんの協力があって、感染者数、医療提供体制等を含めて、感染が非常に多かった時期に比べると、かなり減少しています。
- ・これは、府民の皆さんのご協力のおかげです。
- ・最も多い時は、1,200 人、1,000 人を超えるような日が 3 週間続きましたが、今は 100 人台ということで、約 10 分の 1 まで減少しています。
- ・それに伴って、医療のひっ迫状況もずいぶんと緩和されているという状況です。
- ・ただ一方で、新しい変異株としてのインド株（デルタ株）が、既に大阪でも確認をされています。
- ・これは今後、どういう動きをするかもなかなか見えません。
- ・また、リバウンドはなんとしても防がなければなりません。
- ・その中で、緊急事態宣言をどうしていくのか、これは、最後は国が判断するわけですが、大阪府としても、どのように要請をしていくのかということ、今日の会議で最終決定していきたいと思ってい

ます。

- ・緊急事態宣言について、単純に解除するという事は反対と僕は思っています。
- ・感染対策を継続して行っていく必要がある。
- ・今の感染状況を踏まえた上で、まん延防止等重点措置を適用して、感染対策をしっかりとっていくことが非常に重要ではないかと思っています。
- ・今日は、大阪のこれまでの感染状況、また、専門家や皆さんの様々なご意見を踏まえて、方針決定をしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

※資料1-1に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料1-2に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料1-3に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料1-4に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料1-5に基づいて、健康医療部長より説明。

※資料1-6に基づいて、危機管理監より説明。

※資料1-7に基づいて、危機管理監より説明。

※資料2-1に基づいて、危機管理監より説明。

※資料2-2に基づいて、危機管理監より説明。

※資料2-3に基づいて、危機管理監より説明。

※資料3-1に基づいて、危機管理監より説明。

※資料3-2に基づいて、健康医療部長より説明。

【知事】

- ・医療体制について、現在、重症の確保病床は350床を確保していて、500床をめざして動き始めているという状況。
- ・非常に高い目標だが、昨日も研修を行っており、めざしていきたいと思っております。
- ・これまでは確保病床数と運用病床数は一致していたが、今の重症病床使用率や、病院の要請も踏まえて考えると、運用病床については少しずつ重症者が減ってくると落としていくということで、フェーズ立ても大阪府新型コロナウイルス感染症対策協議会で意見を聞いて定めたわけですから、この基準に従って対応をしていくということで、進めてもらいたいと思っております。
- ・運用病床を戻す病院のスピードは、看護師の配置など個別事情によって違いがあると思っております。
- ・例えば、近大の東田先生はメディアでも発信されているとおり、「一度病床を一般医療に戻すと、重症病床に戻すのが難しくなってくる」というご意見もありますし、一方で、例えば、阪大病院やりんくう病院等は、「他の病気も早く診たいので、重症病床の運用病床数を落としてほしい」という要請もありますので、今回、病床数を落とし始めています。
- ・それぞれのフェーズをベースにした基準で進めていく。
- ・その中で、個別の病院の事情を汲みながら、運用病床を落としていくとき、これは上げていくときにもつながってくるので、協議しながら進めていってもらいたいと思っております。

以上